令和５年度第１回（第 11 期第８回）さいたま市社会教育委員会議　会議録

開催日時：令和５年７月４日（火）10 時 00 分～11 時 30 分
開催場所：別館２階　第４委員会室
出席者名：【委　員】若原　幸範議長、加藤　美幸副議長、石﨑　敬吾委員、
石田　玲子委員、井上　久雄委員、小森谷　由紀江委員、
佐藤　理恵委員、関根　公一委員、塚元　夢野委員、
溝口　景子委員、吉川　洋一委員、亘理　史子委員
【事務局】（生涯学習部）　辻　美由紀
（生涯学習振興課）辰市　健太朗、石田　悦子、
清宮　英恵、伊藤　智美、
清宮　雅貴、小暮　長樹
（生涯学習総合センター）中村　和哉
（資料サービス課）中島　孝一
欠席者名：桑原　静委員、林　弘樹委員、藤田　成司委員
公開・非公開の別：公開
傍聴人の数：なし

１　開　会

２　挨　拶

３　議　事

⑴　報告事項　前回会議について

令和４年度第４回会議の概要について、会議録に基づき説明した。

⑵　協議事項

ア　令和５年度　社会教育関係団体補助金について

令和５年度の社会教育関係団体補助金について資料１に基づき説明し、意見を聴取した。

【意見・質疑応答】

＜副議長＞

令和４年度と令和５年度では支払額が異なるが、それは何故か。

＜事務局＞

例年、今年度と同じ１６５万円を計上しているが、昨年は補助対象期間前に実施された事業があったため、その分が補助対象となっていない。

今年度は対象期間内に実施されるため、例年通りの額に戻っている。

＜副議長＞

補助対象期間はいつからか。

＜事務局＞

今回の社会教育委員会議で支出の承認をいただき、教育委員会で支出決定を行って以後である。昨年はその前に実施した事業が補助対象外となった。

イ　第 11 期さいたま市社会教育委員会議提言案について

前回までに出た委員からの意見を基に、社会教育委員会議議長が執筆した提言案の内容を事務局より説明した。

【意見・質疑応答】

＜亘理委員＞

まず目次をご確認いただきたい。

「Ⅰ　『さいたま市生涯学習ビジョン』を実現していくための方策について」は「１」で理念、「２」でこれまでの経緯を述べる形式となるため、「３」と「４」を一つの項目とし、小項目として「⑴　個人の学習成果が…生かされるための方策」と「⑵　市民と生涯学習提供者双方が…理解するための方策」を立てる方が良いと思う。また、目次と本文で「３」が異なる表題となっているところを揃えていただきたい。

次に、１ページ目の理念の中に「チカラ」という言葉が使われているが、あえてカタカナで「チカラ」とした理由を伺いたい。

＜議長＞

まず、「Ⅰ」の「３」と「４」は共に方策の内容に該当するため、ご指摘の通り統合した章を設け、二つの項目を組み入れる形が適切だと思われる。また、目次と本文での「３」の表題のズレは、執筆の際に表題を変更したため生じたものなので、内容を見直した上で揃えたい。

続いて「チカラ」という表現は、学術論文であれば「能力」や「力量」といった表現を使うところだが固い印象があるため、敢えてカタカナを使用することで読者にとっつきやすい表現とする狙いがある。他のご提案があれば改めて検討したい。

＜亘理委員＞

「チカラ」という表現をお祭りの神輿とするなら、一緒に担ぎたいという気持ちがありお伺いした。ただ、正確な意味が理解できないまま流されて行動するのは避けたいので、ご意思を確認したかった。

＜関根委員＞

全体的によくまとまっており、専門家の皆様の知識や若原議長のお人柄も表れ非常にバランスの取れた内容だと感じる。

ただ、本提言は社会教育行政の担当者に事業をより強力に推進するきっかけを提供する一方で、他の部署の担当者にも「生涯学習を推進していかなければならない」と思わせるだけの力強さがもう少し欲しい。

例えば７ページの小括で行政各部署に一定の役割意識を持つよう求めているが、こ

のような審議会ではもう少し断固とした姿勢を示し、行政へ強く促すことも許容されるだろう。社会教育委員会議として、これまで議論してきた自信を持って推進すべきだと思う。この提言が今後の「生涯学習ビジョン」の具体化にも繋がるので、更に一歩二歩踏み出したものとしたい。

＜佐藤委員＞
　まず提言全体について、豊富な情報が含まれており、数字を使った明確な区分けで構成されているので、非常に一貫性があり素晴らしい。内容も共感を覚える部分が多く、本当に良くできている。
　一点、他者へのアピールという点を考慮した提案がある。我々委員はこれまでの会議で「生涯学習ビジョン」の実現戦略を議論してきたため、提言に取り上げられた具体的なポイントをすぐに理解できるが、市民への訴求力を高めるために、各方策が「生涯学習ビジョン」の実現に向けて何を目指しているのかを簡潔な一文で記載してはいかがか。まず冒頭で一言説明し、そのあと詳細な情報を提供することで、提言の内容をより簡潔に理解できると思う。

＜塚元委員＞
　提言を読み進めているとこれまでのワークショップや議論が思い出され、このように良くまとめていただけたことに驚かされた。
　一方で、何も知らない方は読解に苦労するかもしれないので、佐藤委員のご意見のとおり明確な見出しがあると、よりわかりやすくなると思った。
　次に事務局にお尋ねしたい点として、以前の会議でもご説明いただいたと思うが、今回の提言が実践されることで想定される成果について改めて伺いたい。
　例えば、若手職員が情報発信を向上させるためにソーシャルメディアを利用したり、多言語で発信したい時には、上席の理解を得るため、この提言がアイデアを主張したり、予算を確保する際の助けとなるイメージだろうか。

＜事務局＞
　まず現在生涯学習部では組織として「生涯学習ビジョン」の推進を掲げているため、それを基に課の目標、個人の目標を設定している。そのような形で「生涯学習ビジョン」の理念は組織全体に浸透していると認識している。
　そのうえで、今回お作りいただいた提言を関係所管で共有することで、職員個々人がそれぞれの立場から「生涯学習ビジョン」を推進していく指針になると考えている。

＜議長＞
　社会教育委員会議２年間の議論の成果としてしっかりご活用いただきたい。

＜亘理委員＞
　提言の中で使われている語彙について、例えば２ページ目の「４つのキーワード」

が下部では「視点」として言及されているなど統一されていない部分や、３ページ目の「生涯学習の文脈」など一般の市民の方には定義が難しい部分があるため、改めて調整をお願いしたい。
　また、多様性に関して「障害のある人や外国籍の人等の社会的に不利な立場にある人々」という言及があるが、ここは読み方によって誤解が生まれてしまうところでもあるので、２ページ目のように丁寧に言及をした方が良いのではないか。
　続いて、時と場所を選ばずに参加できる取組にＷＥＢ会議システムが含まれていたが、実際には時間を指定する必要はあるため、そこは分けると良いと思う。

＜副議長＞
　方策の最後のページで生涯学習という言葉は難しいため、さいたま市民にとって腑に落ちる言葉を探る必要が求められているが、それまでの本文にも生涯学習という言葉が多く使われているので、議長が先程おっしゃった「チカラ」のように幅広い表現に置き換えると分かりやすくなるのではないか。
　また、１ページ目の最後に「さいたま市が取組むべき方策」とあるが、このさいたま市は社会教育行政を指すのか、学校行政・市長部局や市民は含むのかという点や、次ページに挙げられるテーマの「市民と学習支援者双方」も学習支援者には市民も入るのではないかという点などもあり、用語を整理すると良い。
　また、教育行政のみならず、市長部局へのアプローチやＮＰＯなどとの連携の視点もさらに増やすと、障害のある方や外国籍の方等間口が広がると感じた。

＜小森谷委員＞
　仕事柄防災活動に関わることが多いのでその点で言うと、ハザードマップ作りという記載があるが、ハザードマップは市で作成しているものなので、マイタイムラインなどの取組のほうがしっくりくる。また、防災士への言及もあるが防災士は資格名なので、市の登録制で活動する防災アドバイザーなどに変えていただけたらと思った。

＜議長＞
　ワークショップで消防団活躍推進室にもお世話になったので記載したが迂闊な部分があった。ご指摘いただき参考になった。
　本日のご意見を基に、さらに内容を工夫して仕上げたい。

【総括】
＜副議長＞
　まず今回も多彩なご意見をいただいたことを皆様に感謝申し上げたい。
　本会議は様々な団体やお立場から委員にご参加いただいており、「生涯学習ビジョン」推進のため様々なご意見を伺うことができた。また、議長にはワークショップの事例等を多く盛り込んでご執筆いただき、非常に良い提言となったと感じている。提言の完成まで、引き続き頑張って協力していきたい。

＜議長＞
２年間の議論やワークショップを思い返し、その成果を出来るだけ伝えられるように今回の提言を作ったが、皆様のご意見を伺うとそれは達成出来たのではないかと思っている。一方、やはり研究者の性で難しい表現や抽象的な表現を使っているところもあり、表現上の改善点は多くあったので、加藤副議長と相談しながらさらに工夫を加えたい。

４　連絡事項

さいたま市生涯学習ガイドブック、さいたま市生涯学習学びのネットワーク、さいたま市生涯学習フェスティバルについて事務局より説明した。

５　委員第 11 期振り返り

＜佐藤委員＞
あっという間の２年間だった。私が思っていた以上にさいたま市は社会教育の活動に力を入れていらっしゃり、皆様が様々なことを考えて頑張っている姿が非常に印象的であった。

＜小森谷委員＞
皆様とここで顔を合わせ、ワークショップ等で議論を続ける中で、私自身も生涯学習を改めて考えるきっかけとなった。また、自分自身が地域の中で何ができるかを改めて考える視点を持つことができた。

＜石田委員＞
社会教育委員として活動する中で、生涯学習についてより深く考える機会を持てたことは、自分にとっての宝物だと思っている。これからもさいたま市の様々なイベントに積極的にかかわっていきたい。

＜石﨑委員＞
今期の委員の皆様方の議論を踏まえ、次の機会に生かしていきたい。

＜井上委員＞
２年間にわたり社会教育委員として多くのことを学ばせていただいた。ここでの委員としての経験を青少年育成さいたま市民会議の活動に活かしまいりたい。

＜議長＞
毎回拙い進行で申し訳ないと思いながらも、皆様から活発なご意見に助けていただき、私自身も学ぶことの多い２年間であった。提言の仕上げがもう一仕事残っているが、皆様の議論がしっかり生きるような形にしたい。

＜副議長＞

本当に様々な立場の皆様からご意見をいただいたことで、「生涯学習ビジョン」も作って終わりにならずに実行が伴う提言が作れそうで、ありがたいと思っている。今期は通常であればなかなか考えられない自主的なワークショップを実施するなど、会議のチームワークも素晴らしいものとなった。まだ提言の完成は少々先になるが、この場で学んだことを生活の中に生かしていきたい。

＜亘理委員＞

気づけばもう何年も社会教育委員として参画させていただき、長いことお世話になった。今期もこれで最後と思い、色々意見を言ってしまった。教育委員会の皆様には、コロナ禍のときにも何かできることはないかということで、言葉のシャワーなど新しい取組に挑戦してくださっていたことが印象的だった。また、社会教育委員会議は優秀な若い方々が集まっており、女性の皆様も生き生きとしているので、私も負けないように予習をして臨み、皆様の情熱にいつも元気をもらっていた。大学でもこの経験を学生に伝えたいと思う。本当に幸せな時間を過ごすことができた。

＜吉川委員＞

この提言案を読み、まずスポーツ協会としてスポーツを通じて提言の実現に向けてできることをやっていきたいという思いを持った。また、私自身現在障害者を支援する社会福祉法人で勤めているため、提言の中で障害のある方というフレーズがあることに身が引き締まる思いがした。障害がある方が物事になかなか参加しにくいことを不利と捉え、我々を含む社会全体で支援していくということが非常に良かったし、力づけられた。

＜溝口委員＞

まずは、ＰＴＡ協議会の問題でご心配をおかけしていることをお詫び申し上げる。現在第三者協議会で調査中であり、結果が出たら必ずご報告申し上げたい。

この２年間社会教育委員会議で、この会議でしか出会えない多方面でご活躍されている皆様とお話しできたことは貴重な経験となった。私も今後は地域の一員としての立場でこれからは社会教育に関わっていきたい。

＜塚元委員＞

公募委員として、普通に生活しているだけでは出会えない様々な分野のプロフェッショナルとこうして議論することが出来、市民としてレベルアップできたような気持ちをもっている。ただ、コロナ禍もありその成果を夫に話すことでしかアウトプットできない時期が長く、残念な思いをしていた。そのため、今さいたまの暮らしを発信するPodcast の番組をやってみようかという話を夫としており、少しずつ自分の経験をアウトプットしていきたいと思う。

＜関根委員＞

実は私は今期の会議とワークショップを皆勤しており、まずは自分を褒めてやりたい

と思っている。さて、私は民間企業の出身で長く都内に勤務していたということもあり、公募委員となるまでさいたま市のことをほとんど知らなかった。しかし、この会議に参加することで色々な知識を身に付けることが出来、また行政の担当者の皆様の熱意や取組の密度を知ることが出来て非常に楽しく、またさいたま市の将来は安心だという気持ちにもなった。

＜事務局＞

まず議長副議長をはじめとする委員の皆様には、２年間の活動に本当に感謝を申し上げたい。今回の第 11 期社会教育委員会議はこれまでの中でも最も活発な議論が行われたと感じている。委員の皆様にはワークショップを通じて、ゼロベースから様々なご意見をいただいて提言をお作りいただいた。我々はこの貴重なご意見を実際の行動に変えていく責務があり、さいたま市の中で共有していきたい。

６　閉　会

以上